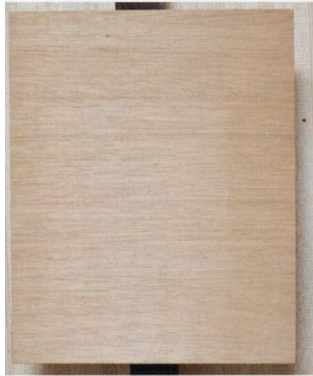


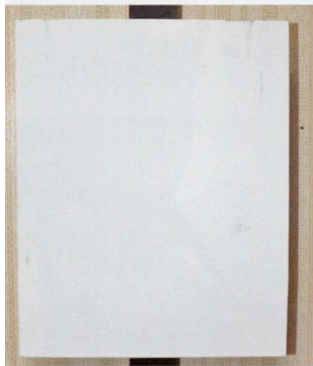
制作プロセスを拝見！ 鉛筆が生み出す透明な黒

談・安富洋貴

POINT キャンバスを貼った上に ケント紙を張る



支持体にはパネルを使用。

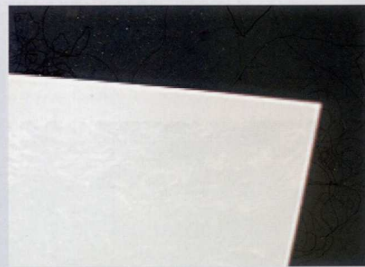


パネルの上に、同じ大きさのキャンバス布をアクリル
の接着剤で貼り、サンドペーパーで表面を軽く整え
る。さらにその上から四方をくるむようにケント紙を
張る。

支持体は紙をパネルに張って
使用しています。ここで木で作
られたパネルに直接紙を張ると
木から灰汁が出て、紙が酸化す
る可能性が高くなります。それ
を避けるために、木のパネルの
上に、まず同じ大きさのキャン
バス布（極細目）を貼っています。
さらにその上に紙を水張りにし、
裏面をガンタッカーで留めてい
ます。予めパネル全体には木部
防虫・防腐ステインを塗ってい
ます。現在は灰汁止め効果のあ
る下地剤（シーラ）が画材とし

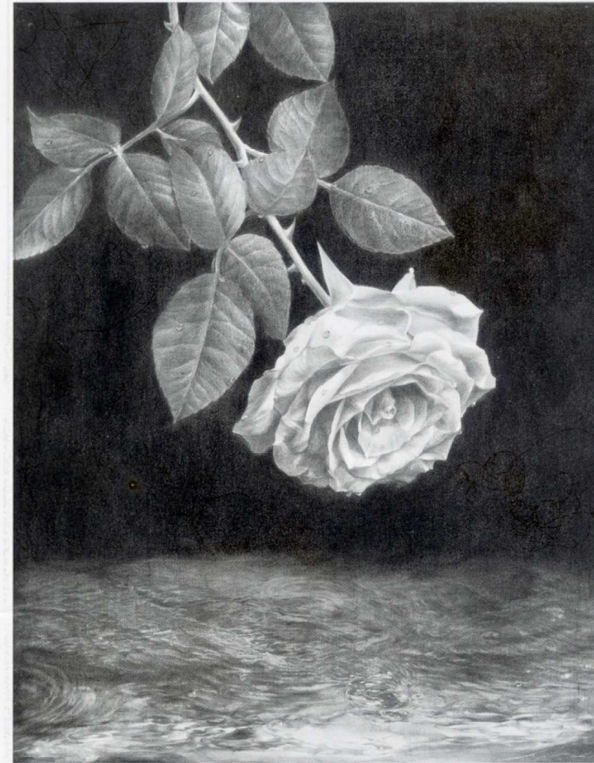
て製品化されていますが、より
万全を期待してこのような方法
をとりました。
もともとキャンバス布を貼る
のは紙の酸化防止のためでした
が、その上から描いていくと、
葉の上に紙を敷いてその上をな
ぞり、葉脈を写し取るフロッタ
ージュと同じような、思わぬ効
果を得ることができました。キ
ャンバスの織り目がかすかに画
面に現れます。

KMKケント紙

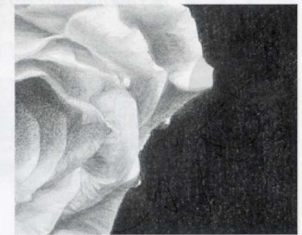
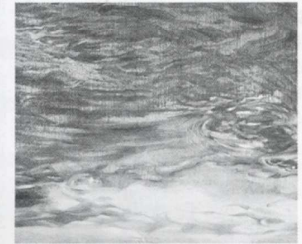


支持体としての紙は純白のものを選んでます。
ですから使用する紙はKMKケント紙やシルバーヒ
ルケント紙を好んで使っています。紙のなかには
酸の含まれる割合が多いものもあります。酸が多
いものはどうしても劣化するイメージがあります
ので、pHが中性のものを選ぶようにしています。

画面に凹凸を寄つてみると、背景などの漆黒に塗られた部分にかす
かな凹凸、変化があることがわかる。これは紙の下にキャンバスを
置いておくことよって、フロッターージュのように下のキャンバス
の布目が画面に影響を与えていこうと生じる。



『眠れる世界』2011年 鉛筆、KMKケント紙、麻布、パネル 10号P



私の中の一貫したモチーフは夜の光景
です。昼には他者からどう見えているの
かを必ず意識して生活している「私」（ベ
ルソナ）がいます。友人の中での役割
学校の中での役割、そうした様々に課せ
られた役割が夜にはなくなつてリラック
スできます。また昼間は明るい日差し
のなかで全てがクリアに見えてしまつて、
逆に煩雑に感じることがありますが、夜
は暗がりのなかで自分が見たいものが浮
かび上がってきます。それを画面に表せ
ないかと思っています。
鉛筆は透明度の高い素材です。どんな
に塗り重ねていっても、完全な黒にはな
りません。夜の闇も、完全な黒ではなく
だんだんとその暗がりのなかに様々な
のが見えてきます。その透明な黒を表現
するのに、鉛筆が一番適しているのでは
ないかと思えます。



アトリエの壁面には、様々なイメージス
ケッチャや撮影したモノクロ写真が貼られ
ている。これらが熟成され、作品となる。